

私は今回のことを通して、実践的な英語を学びました。今までは単語帳を見て、勉強していました。インプットばかりの勉強ではなく、マレーシアの学生と実際に会話をする中で、改めて英語での会話の仕方を知ることができました。次に、マレーシアは多民族国家であるため、マレーシアの学生はマルチリンガルの子が多かったです。このことに衝撃を受けました。色々な言語を使いこなす子が多く、日本語で「大丈夫？」と声をかけてくれました。マレーシアの学生の皆は優しく、親切でした。そして、UTARの授業では、現地の先生と日本の学生たちと協力しながら、プレゼンテーションや、英語の発音の勉強をしました。ですが、難しい言葉になると、頭が真っ白になり、翻訳機を使わないと話せなかったです。私はとても悔しくなりました。それと同時に翻訳機を使わずに話したいと思うようになりました。その後から、翻訳機を使わないようにしようと心がけていました。



次に、スーパーマーケットに買い出しに行くとき、1人で何を買おうか迷っていたら、UTARの学生が声をかけてくれました。私はその時なるべく翻訳機を使わないようにしたいと思っていました。しかし、言葉が出てこなくて、「Hmm...」と、困っていたら、UTARの学生が「翻訳機を使ってください。」と、話してくれました。その時私は、自分の力で話すことも大切だけど、翻訳機などの便利なツールを使って会話するのも1つの手段だと思いました。わからないことは、どうしてもわからないからこそ、素直に便利なツールを使いました。その後、フレーズを覚え、やり方を工夫することで、英語で表現できる幅が広がりました。その後、宿舎の近くのお店で、メモ帳を買いました。現地で英語のフレーズを勉強するため

です。その時から、英語の勉強のモチベーションが向上しました。今までよりも、実践的な英語が身につきました。

最後に、私が成長した瞬間は、クアラルンプールでの自由行動の時でした。マレーシアにうちに、自分で勉強したフレーズを使って、UTARの生徒と少しだけ話せるようになりました。自分から積極的に話しかけたので、最後の日には、翻訳機をあまり使わずに、目を見て話すことができました。UTARの生徒は笑ってくれました。初めて、自分の力で会話が出来たと実感しました。このような機会をくださった城西の先生方や、UTARの先生方、友達に感謝します。

マレーシアでの挑戦と成長

